

業種別景況予測

平成30年4月～6月

						
	特に好調	好調	まあまあ	やや不振	不振	きわめて不振
部会	1～3月 (実績)	4～6月 (見通し)	概況			
寝装 リビング			「原材料の高騰が著しい」「需給バランスが不安定で利益にならず、極めて不安定」とのコメントが寄せられた。製造業に関して、日銀の短観によるDI値はプラスを維持しながら若干の上昇。泉大津は昨年同時期に比べ上昇しているが、マイナスで推移している。また、全国的にみて不織布は出荷量を増やしている。			
繊維 ファッション			「相変わらずアパレル業界は不振であるが、機能性加工が増加している」「原材料・運賃の値上げにより売値の設定が厳しい状況」とのコメントが寄せられた。DI値は上向きではあるが、依然前途不透明である。全国的には各社、ECへシフトしている。			
工業			「材料費等の仕入れ価格が上昇してきている」「新しい価値を付加した新製品の開発はどんどん進んでいるが、製造工場が少なく製造が一極集中している」「人材不足(技能力)が深刻」とのコメントが寄せられた。一方で半導体関連向けは底堅く伸びている。			
建設			「ようやく景気が上向きになってきた気がする。」「若手作業員の不足が深刻な状況であり、今後の策を要す」「景気上向きの報はあるが首都圏のみと感じる」とのコメントが寄せられた。国土交通省がまとめた建築着工統計調査によると、3月の新設住宅着工戸数は前年同月比8.3%減の6万9616戸だった。			
運輸倉庫			「地場産業の毛布製造業者の廃業により全体的に出荷量が少なくなっている」「客先の取扱い量が増加し、利益が増加」「荷動きが今一つ良くない様子」とのコメントが寄せられた。会社によって景況感はまだら模様である。人手不足による受注減の声もあった。			
金融理財			不動産業からは「まずまず。良くもなく悪くもなく不動産は案件が少ない」、士業からは「相変わらず高齢者のニーズが高い」とのコメントが寄せられた。全国の商業用不動産投資額は今期14%増加しており、通年では5～10%増加の見通し(JLL 日本法人調べ)。			
一般商業			「売上は多少減少すると思われるが、利益に関しては前年と変わらないとみている(調剤薬局業)」「時計の動きは良くない。バッグ袋物も横ばい傾向(小売業)」とのコメントが寄せられた。府内では食品以外の物販は苦戦しているという事だが、横浜で開業した「食」を中心とした商業施設が堅調であるなど、食品がトレンドである。			
サービス業			介護業からは「法改正によって締め付けが厳しく人材を確保できない」。飲食業からは「一年前の駅前開発に比べ客足が減少」「若者が喫茶店離れている」とのコメントが寄せられた。日経のDI調査ではコト消費(体験型サービス)を取り込んだ事業者が上向いた。			

(調査概要) ●調査実施 平成30年5月 ●調査対象企業 292社 ●回答数 147社

管内企業をとりまく諸条件を考慮し、各企業が「景況」をどのように予測しているのかについて、継続的に調査し発表しています。調査は、四半期毎にとらえており、通常のシーズンの動向が理解できるようにまとめました。この「景況予測」が「結果」と比べてどうであったか、また、各々の業界対策・企業経営の一つとして、参考にしていただければ幸いです。

～調査機関～ 泉大津市田中町10番7号 泉大津商工会議所 中小企業相談所 TEL 0725-23-1111